

深川探索

都民憩いの場 清澄庭園

東京都指定名勝「清澄庭園」は、都営大江戸線・半蔵門線「清澄白河」駅で下車し歩いて数分のところに入り口があります。

◆歴史

この庭園の一部は、江戸時代の豪商・紀伊国屋文左衛門の屋敷跡と伝えられており、明治11年に岩崎弥太郎が社員の慰安や貴賓招待の場所として庭園造成を計画し、二年後に「深川親睦園」として一応の竣工をみました。弥太郎亡き後も造園工事は行われ、隅田川の水を引いた大泉水を造り、全国から取り寄せた名石を配して、「回遊式林泉庭園」が完成しました。大正12（1923）年9月の関東大震災や昭和20（1945）年3月の東京大空襲の時には避難所として多くの命を救いました。このような庭園の持つ防災機能を重視し、岩崎家は東京市に寄付し、昭和7年7月に整備された庭園として公開されました。昭和52年に敷地の一部が追加され現在の庭園となりました。

◆見どころ

この庭園の見所はいろいろありますが、私が行った日は、絵を描くグループが何箇所かに分かれて大きな池に向かってスケッチしていました。（写真一）池の向こうに見えるのは涼亭という集会所として使える数寄屋造りの建物で、日本情緒を演出しており、絵の中心にもなっているようにでした。集会所として利用できる建物は、池を見下ろす入り口横に大正記念館もあります。ここも由緒ある建物ようです。池を中心として、遊歩道が整備され、ところどころに全国から集められた石が配置されていて、池の端には水の中に配置された石を渡れるようになっている部分もあります。



写真一4



写真一5

その2 ☆文・写真 黒岩 正信

本誌編集企画小委員



写真一1



写真一2



写真一3

（写真一2）この部分を滑らないように渡っていると、石の間から亀が覗いていたりして、楽しめました。また、池にはアオサギやカルガモなどの水鳥もいて、ちょうどカイツブリが魚を捕らえた瞬間に出会い写真を撮ることができました。（写真一3）この庭園は隅田川に近く、俳聖松尾芭蕉の暮らした深川の芭蕉庵に近いこともあって、有名な古池や・・・の句が刻まれた句碑もありました。（写真一4）ミンミンゼミやアブラゼミの蝉しぐれを聴いていると、「奥の細道」の途中、山形県立石寺で詠まれた（閑かさや岩にしみ入る蝉の声）の句の方がびったりのような気もしました。俳句に興味のある方は、近くにある芭蕉記念館もお勧めです。この庭園入り口で地図をもらえば、間違いなく歩いて行けるところにあります。大正記念館前の芝生では、ウスバキトンボが飛び交い、お盆が近いことを告げているようでした。

また、庭園入り口の反対側になりますが、庭園に接して深川図書館があって、その建物は円形階段の途中にスタンドグラスのあるとてもレトロな雰囲気でした。歩きつかれたらここで一休みもいいかもしれませんね。（写真一5）

以上のように、いろんな見どころのある庭園で、今回は触れなかった季節ごとの花も楽しめ、お花見の場としても活用されているようです。入園料は150円と格安ですので、何かの機会にぜひお出かけください。